

この薬に含まれているのは？

成分・分量	1日量（1錠中） オメプラゾール 10mg
-------	--------------------------

添加物として、ラウリル硫酸Na、セタノール、乳糖水和物、デンプングリコール酸Na、ヒドロキシプロピルセルロース、水酸化Mg、ステアリン酸Mg、ヒプロメロース、合成ヒドロタルサイト、酸化チタン、ヒプロメロースフタル酸エステル、タルク、カルナウバロウを含有します。

この薬の保管方法は？

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
2. 小児の手の届かない所に保管してください。
3. 他の容器に入れ替えないでください。
（誤用の原因になったり品質が変わるおそれがあります。）
4. 使用期限をすぎた製品は、服用しないでください。

この薬についてのお問い合わせ先は？

この薬についてのお問い合わせは、お買い求めのお店又は下記にお願い申し上げます。

佐藤製薬株式会社 お客様相談窓口	電話 03(5412) 7393	受付時間 9:00～17:00 (土、日、祝日を除く)
---------------------	------------------	-----------------------------------

副作用被害救済制度の お問い合わせ先	(独) 医薬品医療機器総合機構 https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html 電話 0120-149-931 (フリーダイヤル)
-----------------------	---

製造販売元 **佐藤製薬株式会社** 東京都港区元赤坂1丁目5番27号

提携 **AstraZeneca** 

®：アストラゼネカ・グループの登録商標です。
K2508学術MT

使用する前に必ずお読みください。

要指導医薬品

プロトンポンプ阻害胃腸薬 オメプラール®S

この薬に関する注意

3日間服用しても症状がよくなりえない場合は服用を中止し、添付文書を持って医師又は薬剤師に相談してください。症状が改善しても2週間を超えて続けて服用しないでください。

この使用者向け情報提供資料は、ご使用者の皆様に、要指導医薬品の正しい理解と、副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この薬を服用するときに特に知っていただきたいことをわかりやすく記載しています。

服用後に発現した症状がこの薬による副作用と考えられる場合は、直ちに医師又は薬剤師にご相談ください。

また、ご不明な点などございましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にご相談ください。

胃酸が原因でおこる症状とは？

食生活の偏りや加齢などにより、胃酸が食道へ逆流すると、胸やけや呑酸どんさん（胃酸がこみ上げ、のどや口の中まで酸味を感じる）などの不快な自覚症状があらわれます。他にも胃痛やもたれなどの症状を訴える人もいます。

この薬の効果は？

この薬は、オメプラゾールを含有するプロトンポンプ阻害薬で、胃酸を分泌するプロトンポンプをブロックし、胃酸の出過ぎをおさえることにより、「胃痛、胸やけ、もたれ」といった食道や胃の不快な症状を1日1回1錠の服用で改善します。

この薬を使用する前に、確認すべきことは？

1. 次の人は服用しないでください

(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。

本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人は、同じ症状を発現するおそれがあります。

(2) 次の医薬品を服用している人。

リルピピリン塩酸塩

本剤の胃酸分泌抑制作用により薬剤の吸収が低下し、血中濃度が低下することがあります。

2. 本剤を服用している間は、次の医薬品を服用しないでください。

他の胃腸薬

本剤と他の胃腸薬の併用により作用の増強や予期せぬ副作用を引き起こすおそれがあります。

3. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳をさけてください

動物実験でオメプラゾールは母乳中への移行が認められていることから、授乳中の女性が服用すると乳児に影響を与える可能性があります。

4. 他のプロトンポンプ阻害薬の使用期間も合わせて2週間を超えて続けて服用しないでください（重大な消化器疾患を見過ごすおそれがありますので、医師の診察を受けてください。）

本剤を漫然と続けて服用することによって胃がん等の重大な消化器疾患を見過ごすおそれがあります。

5. 次の人は服用前に医師又は薬剤師にご相談ください

(1) 医師の治療を受けている人。

本剤の成分が治療中の疾患に影響を及ぼしたり、医師から処方されている薬との重複投与や相互作用を引き起こすおそれがあります。また、ジアゼパム、フェニトイン、シロスタゾール、ワルファリン、タクロリムス水和物、メトトレキサート、ジゴキシン、メチルジゴキシン、イトラコナゾール、ゲフィチニブ、エルロチニブ、ポリコナゾール、クロピドグレル硫酸塩を服用している人、あるいはセイヨウオトギリソウ含有食品を摂取している人は、薬剤の作用が増強したり減弱するおそれがあります。

(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。

妊娠中の服用については、安全性が十分確認されていません。

(3) 高齢者。

一般に高齢者は生理機能が低下しているため、作用の増強を引き起こすおそれがあります。

(4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。

過去にアレルギー症状を起こしたことがある人は、アレルギーを起こした薬や類似する薬の服用により同じ症状を発現するおそれがあります。

(5) 次の診断を受けた人。

肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

本剤は、主として肝臓で代謝され、肝臓病の患者では血中濃度が高くなるおそれがあります。また、胃・十二指腸潰瘍の患者では、オメプラールや類似の薬剤が処方される可能性があり、重複投与となったり相互作用を起こすおそれがあります。

(6) 次の症状のある人。

原因不明の体重減少、持続性の胃痛・腹痛

胃がん等の重大な消化管疾患を見過ごすおそれがあります。

この薬の使い方は？

1. 用法・用量について

1回服用量及び1日服用回数は次のとおりです。

年齢	1回服用量	1日服用回数
成人(15歳以上)	1錠	1回
小児(15歳未満)	服用しないでください。	

・2週間を超えて続けて服用しないでください。

<用法・用量に関連する注意>

- (1) 定められた用法・用量を厳守してください。
- (2) 本剤は腸で溶けるお薬ですので、かんだり、砕いたりせずに服用してください。
- (3) 1日1回同じ時間帯に服用してください。
- (4) 症状が治まった場合は、服用を止めてください。

- (5) 錠剤の取り出し方：右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出してお飲みください。
(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。)



2. 飲み忘れた場合の対応について

気がついたときにできるだけ早く飲んでください。ただし、次の服用時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで1回分を飛ばしてください。

絶対に2回分を一度に飲んではいけません。

3. 多く服用(過量服用)したときの対応について

異常を感じたら、添付文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください。

この薬の服用中に気をつけなければならないことは？

1. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、添付文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください

関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ、じんましん
消化器	下痢、軟便、便秘、吐き気・嘔吐、腹部膨満感、腹痛、口内炎、舌炎、口のかわき、飲み込みにくい・胸やけ・嘔吐・口腔内白斑（カンジダ感染症が疑われる）
精神神経系	頭痛、眠気、しびれなどの異常な感覚、めまい、ふるえ、不眠、うつ状態、一時的にボーっとする、意識の低下、気を失う
循環器	動悸
泌尿器	頻尿

関係部位	症 状
その他	目のかすみ、発熱、むくみ、女性化乳房（男性の乳房が女性のように膨らむ）、脱毛、からだのだるい、関節痛、味覚異常、月経異常、筋肉痛、発汗、筋力の低下、顔や手足の筋肉がびくつく、手足の筋肉が硬直しガクガクとふるえる

同じ成分を含む医療用医薬品の添付文書に副作用として報告されています。

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化する。
横紋筋融解症	手足・肩・腰等の筋肉が痛む、手足がしびれる、力が入らない、こわばる、全身のだるい、赤褐色尿等があらわれる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれる。

症状の名称	症 状
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
血液障害	のどの痛み、発熱、全身のだるさ、顔やまぶたのうらが白っぽくなる、出血しやすくなる（歯ぐきの出血、鼻血等）、青あざができる（押しても色が消えない）、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる等があらわれる。
視力障害	文字や形がみえにくい、視野の異常等があらわれる。
低ナトリウム血症	けいれん、意識の低下、頭痛、吐き気・嘔吐等があらわれる。
錯乱状態	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない等があらわれる。

同じ成分を含む医療用医薬品の添付文書に重篤な副作用として報告されています。

2. 3日間服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、添付文書を持って医師又は薬剤師にご相談ください

3日間服用しても症状の改善が見られない場合は、他の病気や本剤では対応できない症状の可能性があります。